

第2章 鶴ヶ岡外遺跡第5地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡外遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高 27～50m の台地北縁、低地との比高差 4 m あまりの緩斜面上に立地する南北 100m、東西 3.5km 以上の細長い崖線上にまたがる遺跡である。

周辺の遺跡は、江川下流に鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、西遺跡があり、八幡神社遺跡と西遺跡には縄文時代の集落が広がる。また、本遺跡の対岸でも旧石器時代の石器が表採されている。

2003 年 11 月、鶴ヶ岡遺跡に隣接地において事業所の建設に伴う事前協議があり、同年 12 月 2003 年 12 月に試掘調査を行なったところ（第 1 地点）、旧石器時代（立川ロームⅣ層）の石器群と礫群を検出したため、2004 年 1 月 10 日包蔵地の変更増補をして鶴ヶ岡外遺跡として新規登録した。また、2005 年 1 月に第 2 地点を調査した際、崖線に沿って遺跡範囲確認の踏査を行った結果、さらに上流でも旧石器時代の石器を表面採取したため、同年 9 月に包蔵地の変更増補を行なった。主たる時代は旧石器時代～縄文時代早・前期である。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2007（平成 19）年 6 月 12 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は川越江川右岸の台地上に位置する。隣接する北側の第 2 地点の調査で、旧石器時代から縄文時代の遺構と遺物が確認されているため、原因者と協議の結果、遺跡の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は 2007 年 12 月 11 日から 2008 年 1 月 30 日まで行なった。開発区が広大なため試掘調査区

を便宜的に調査区 A 区・B 区・C 区・D 区に分けた。開発区を南北に走る市道を境とし西側に A 区と B 区を、東側に C 区と D 区を設置しそれぞれの調査区名をトレンチ名とした。

さらに、旧石器時代の遺構と遺物を確認するため、調査区 A 区・B 区・C 区に 2×2 m のグリッドを 3～10 m 間隔に設定し深掘りした結果、調査区 B 区と C 区の地表面から約 50 cm の深さで、旧石器時代の石器群を確認したので、原因者と再協議の結果、開発の変更ができず遺跡への影響も避けられないため、原因者負担による本調査を実施することになった。市教育委員会は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で、2008 年 2 月 20 日から 3 月 7 日まで本調査行なった。

調査は遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図の平板測量と写真撮影を行い調査を終了した。

検出した遺構は旧石器時代の石器群 3 ケ所である。

III 遺構と遺物

(1) 石器集中

①石器集中 1

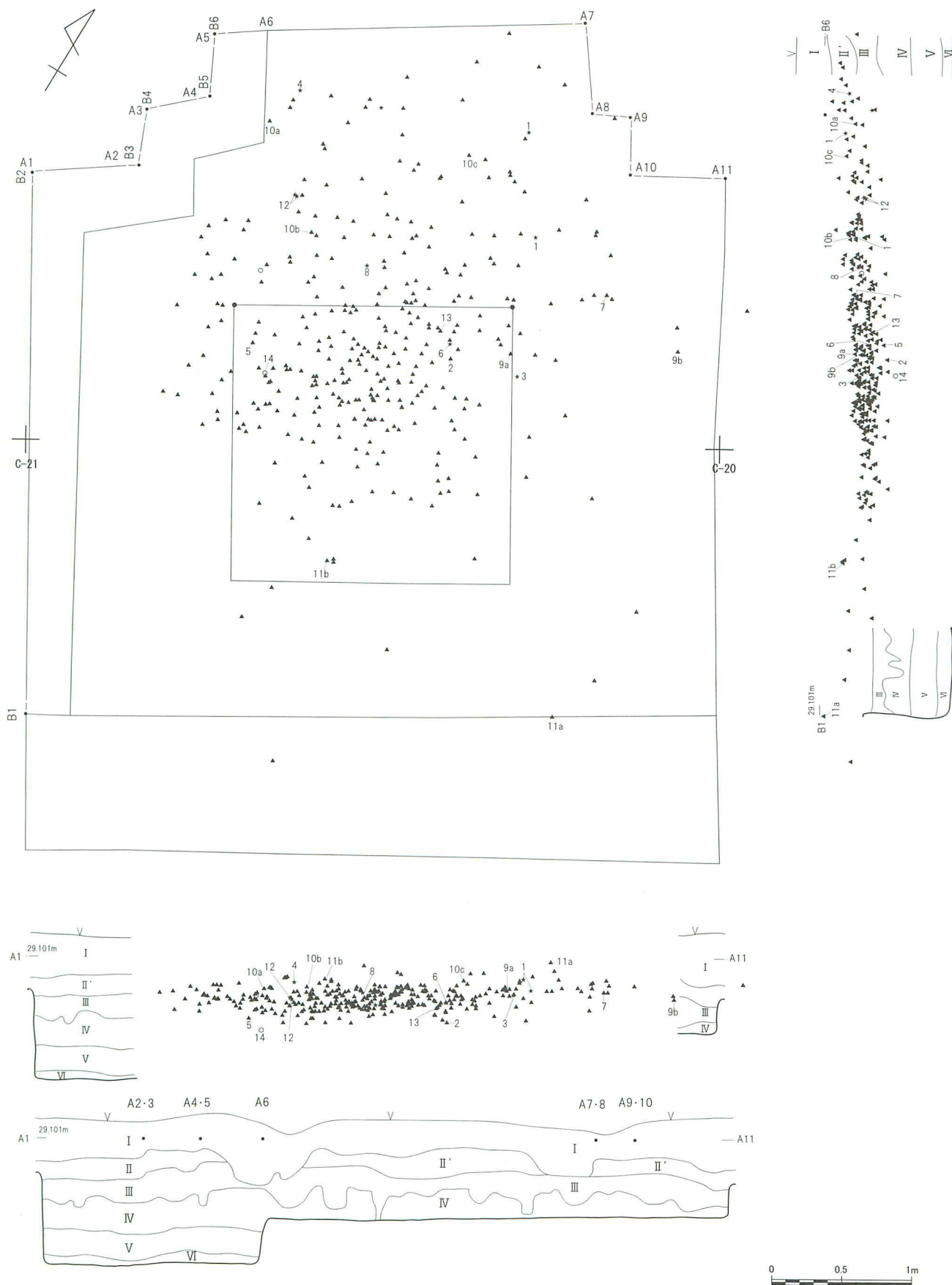
調査区 B 区の中央付近、北端に位置する。東西 4.2 m、南北 5.2 m、標高 28.6～29.05 m の範囲に分布する。総点数 350 点のうち、黒曜石が 347 点・99.1% を占める。出土石器は、尖頭器 1 点（2 点接合）、ナイフ形石器 1 点、二次加工剥片 2 点、削器 1 点、挟入搔器 1 点（2 点接合）である。また、石器集中の最下層から、13×10 cm の平たい砂岩礫 1 点を検出したが、台石として使用された可能性がある。接合資料は剥片で 3 点（2 点接合 2 点、3 点接合 1 点）確認できた。

第 2 表 鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	2003・2004	5,526	事業所	旧石器時代石器群 6・礫群 7、縄文落とし穴 3	町内遺跡群XII 大井遺跡調査会報告第 20 集
2	2004・2005	5,000	老人介護施設	旧石器時代石器群 3、縄文炉穴群 1・落とし穴 1	町内遺跡群XII 大井遺跡調査会報告第 20 集
3	2005	160	鉄塔建設	遺構・遺物なし	市内遺跡群 2
4	2003	5,911	給食センター	遺構・遺物なし	町内遺跡群XII
5	2007・2008	43,449	共同住宅	旧石器時代石器集中 3、石器	市内遺跡群 5

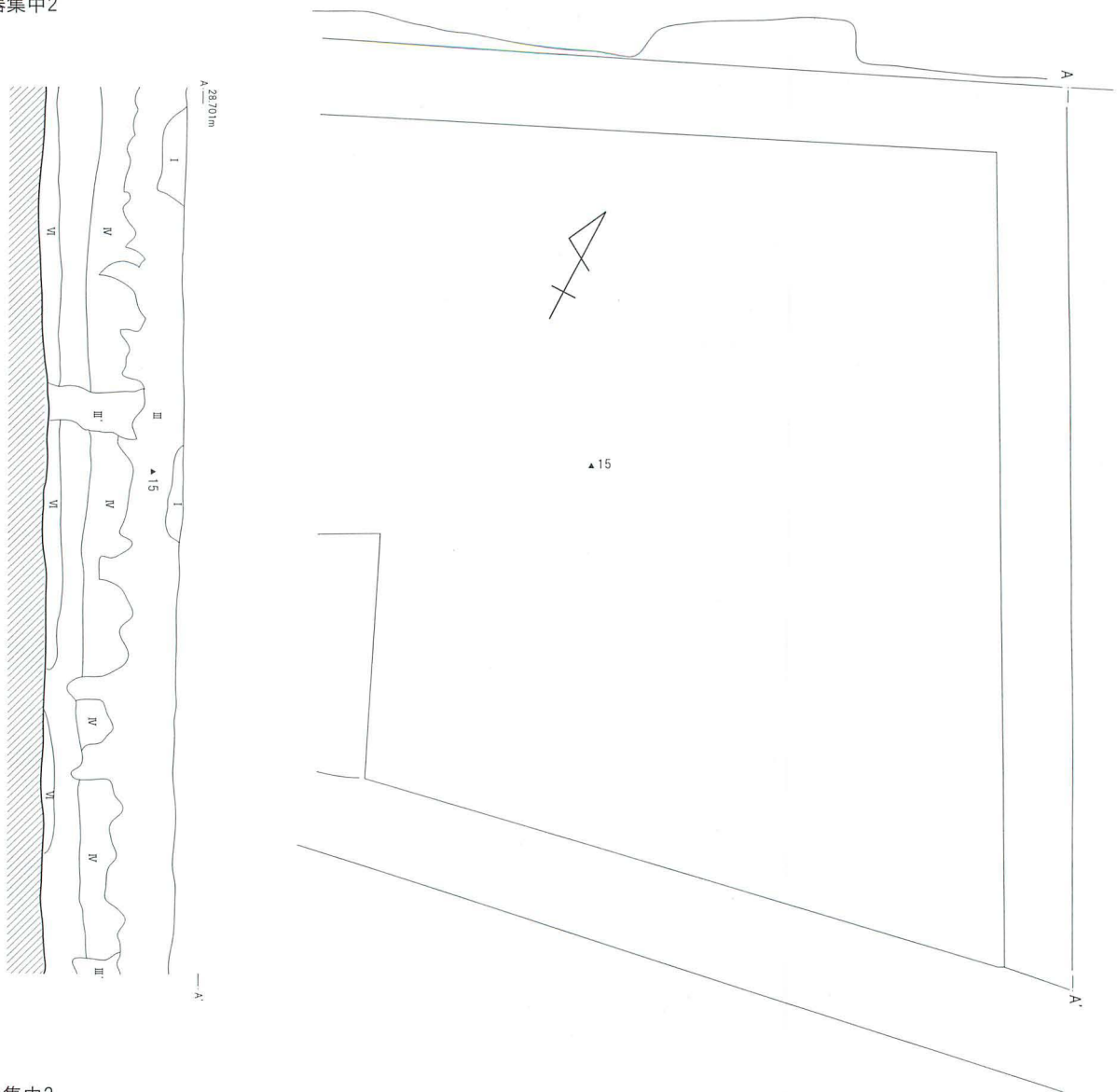


第3図 鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区 (1/10,000)

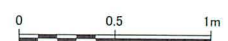
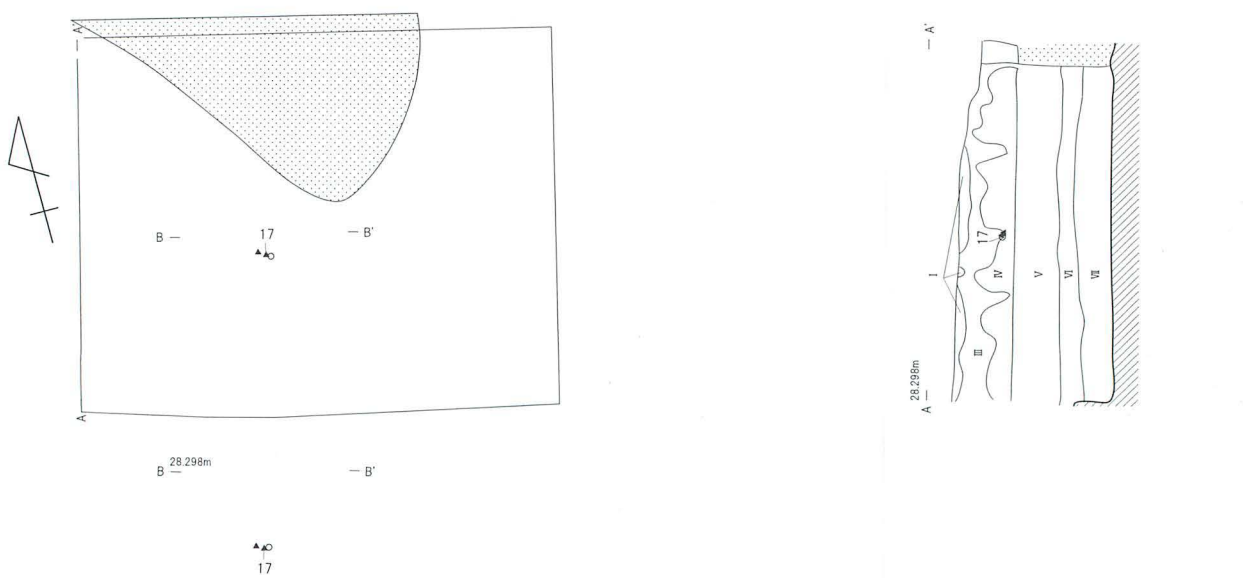


第5図 鶴ヶ岡外遺跡第5地点石器集中 1(1/40)

石器集中2



石器集中3



第6図 鶴ヶ岡外遺跡第5地点石器集中2・3(1/40)

第3表 鶴ヶ岡外遺跡第5地点出土石器計測表

(単位 mm・g)

図No	出土区	No.	器種	石材	石質	打面	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	
第7図	1	B区①	18	尖頭器	黒曜石	a	-	40.8	28.1	9.6	9.17	原礫面付きの素材剥片の打面側を基部として背面側に右側縁が作出されている。左側縁の調整は部分的で、大きく原礫面を残している。素材剥片の主要剥離面は未調整。素材の打面は複数枚の剥離面で構成されており、打面縁辺（作業面との境界線）の剥離面には打点が残存していることから、素材剥片剥離の直前に打面調整を施していることが想定される。
			26									
	2	B区①	338	剥片	黒曜石	b	欠	23.3	26.0	2.9	1.16	背面は対向する2方向からの剥離面によって構成される。その2群の境界付近(剥片末端部)での湾曲が顕著。
	3	B区①	48	剥片	黒曜石	b	欠	(9.0)	29.7	4.0	0.62	ウートラパッセした尖頭器調整剥片の末端部。尖頭器は素材である剥片の主要剥離面側が未調整で、背面に微細な加工が施される。
	4	B区①	61	ナイフ形石器	黒曜石	a	-	9.6	6.3	3.0	0.21	左側縁の基部に二次調整。
	5	B区①	320	剥片	黒曜石		複剥離打面	15.0	13.0	2.5	0.53	打面に微細な剥離痕。いずれも打点あり。打面と主要剥離面の成す角は大きく、反対に打面と作業面の成す角は小さい。
	6	B区①	166	二次加工剥片 / ナイフ形石器未成品?	黒曜石	b	-	25.5	12.1	4.6	1.01	剥片の折損面を打面に、背面を作業面として二次調整が施されている。調整剥離痕にはヒンジングが顕著。打面縁辺には極微細な剥離痕（打面角調整のための、剥離具による磨りによるか）。また、No.4(61)のような破碎した剥片を素材とするナイフ形石器ともみれるか。
	7	-	39	剥片	黒曜石	b	欠	14.7	13.0	2.1	0.39	末端部に湾曲が顕著。
	8	B区①	73	削器	黒曜石	a	-	33.2	17.2	(5.5)	2.88	打面側が折損した剥片の左側縁末端部に主要剥離面側から二次調整が施される。二次調整部縁辺の極微細な剥離は刃部作出時にハンマーで磨ったことによるか？あるいは使用にともなう潰れか？
	9a	B区①	47	剥片	黒曜石	a	複剥離打面	17.5	23.0	3.5	2.08	同時割れによる2剥片か？打面は複剥離面構成で、いずれも打点はみられない。
	9b		175									
	10c	B区①	15	剥片	黒曜石	b	欠	17.2	22.2	6.5	2.40	
	10b		70				欠	(18.8)	22.1	3.5	1.78	
	10a		306		欠	(19.0)	27.5	4.0	1.55	ともNo.10c(15)とNo.10b(70)が連続的に剥がされていないことがわかる。		
	11a	B区①	2	剥片	黒曜石	a	単打面	(32.0)	(42.5)	7.8	11.44	打面と打面に隣接する背面上の剥離面の切り合い関係、要検討。
11b	139											
第8図	12	B区①	304	挟入搔器	黒曜石	a	-	22.1	27.6	5.5	3.30	342には素材剥片の主要剥離面側から急斜度の二次調整が施されている。この調整は折損により、一部が残存しているのみである。304には、折損面を打面とする剥離が残存している側縁部に、また同じ面を作業面とする1枚の剥離（加撃時の剥離具が打面に設置する面積は極めて狭い—打点が小さい—。あるいは打点部に不純物が認められるため、これに由来する偶発的な剥離かも知れない）。
			342									
	13	B区①	336	剥片	黒曜石	a	単打面	20.0	20.0	5.2	2.22	背面構成は、「打面側からの剥離面」「末端側では左右から剥離軸に向けて直行する軸による剥離面」の2種類によっている。これらの境界付近（剥片末端部）での湾曲が顕著。
	14	B区①	352	礫(台石?)	砂岩	-	-	134.3	106.9	57.3	726.11	敲打痕、磨痕、被熱痕などは確認できず。
	15	B区②	1	剥片	チャート	-	欠	(22.2)	(8.1)	(4.1)	0.78	打点側の主要剥離面に折損面からの潰れあり。折損時の痕跡。
16	表土	一括	ナイフ形石器	黒曜石	b	-	(18.2)	9.5	2.2	0.42	右側縁のほぼ全面と左側面の基部に調整が施されている。	
17	C区	3	剥片	チャート	-	礫面	46.1	50.2	9.6	13.99	原礫面を打面とする。主に、主軸に直行する左右からの剥離面によって背面が構成される。	
不掲載		B区①	21	剥片	黒曜石	a	単打面	17.8	14.3	1.3	0.30	主要剥離面側に剥離面を残す打面の欠損の仕方が、尖頭器調整剥片と類似する。全体的に弓なりな側縁観を呈する。
				B区①	41	剥片	黒曜石	a	欠	18.8	20.1	3.9
		B区①	76	剥片	黒曜石	b	欠	(1.5)	(6.8)	(1.6)	0.04	破碎した剥片の一部。二次調整なし。
		B区①	88	剥片	黒曜石	b	欠	23.0	15.3	2.3	0.89	特に末端部で湾曲が顕著。
		B区①	97	剥片	黒曜石	a	単打面	18.2	14.5	3.5	0.57	打面と主要剥離面の成す角が著しく大きく、逆に打面と作業面の成す角が鋭角になる。尖頭器調整剥片の可能性。要実測か？
		B区①	106	剥片	黒曜石	a	欠	18.7	12.1	2.7	0.28	原礫面付きの小形剥片。
		B区①	117	剥片	黒曜石	a	欠	(16.3)	10.2	1.3	0.32	薄片。湾曲はほとんどみられない。
		B区①	136	剥片	黒曜石	a	欠	21.0	14.1	2.6	1.03	打面側、末端側、右側縁の3方向欠損。
		B区①	143	剥片	黒曜石	a	欠	(18.0)	18.1	1.1	0.52	非常に薄片であるが、打面の欠損、単一方向からの剥離による背面構成、直線的な側縁観から尖頭器調整剥片とは断定できない。
		B区①	157	剥片	黒曜石	a	欠	(10.0)	18.2	6.5	0.78	厚手小形剥片。背面における打面直下の微細調整顕著。本遺跡本地点の厚手小形剥片にしばしばみられる。
		B区①	160	剥片	黒曜石	a	欠	(19.3)	13.3	4.4	0.99	ねじれ顕著。
		B区①	163	剥片	黒曜石	a	単打面	22.2	23.8	3.7	2.03	非常に打面幅の狭い単打面。ネガティブ面を加撃している。
		B区①	177	二次加工剥片	黒曜石	a	欠	(8.5)	10.1	5.1	0.83	破碎した剥片の一部であるが、破碎後の二次調整あり。要実測か？
		B区①	178	剥片	黒曜石	a	欠	(18.8)	(25.1)	4.1	1.34	原礫面付きの剥片。
		B区①	189	剥片	黒曜石	a	欠	13.2	21.0	7.0	1.39	厚手の小形剥片。バルブは明瞭でない。
		B区①	200	剥片	黒曜石	a	欠	(10.9)	19.3	3.4	0.58	原礫面付き剥片の末端部。
		B区①	218	剥片	黒曜石	b	欠	21.0	22.2	2.7	1.05	背面に原礫面を大きく残し、末端側には本資料の剥離方向に相対する剥離痕の末端部がみられる。全体的に強く湾曲している。
		B区①	230	剥片	黒曜石	a	点	20.0	(13.4)	2.4	0.47	薄片。側面観は直線的。背面構成は単一方向。
		B区①	263	剥片	黒曜石	b	欠	20.0	13.0	1.7	0.48	薄片剥片。背面の打面直下に作業面調整か？あるいは尖頭器調整剥片？
		B区①	302	剥片	黒曜石	a	欠	18.3	18.3	2.5	0.65	No.2(338)などと同様、対向剥離構成の背面を持ち、2群が接する末端部付近で湾曲が顕著になる。打面は加撃時に欠損か。
		B区①	308	剥片	黒曜石	a	単打面	(0.6)	10.3	6.5	0.41	大きく平坦な単打面。
		B区①	327	剥片	黒曜石	a	山形	(30.7)	(33.9)	4.1	2.25	打面は、本資料の背面が形成される遙か以前に剥離された大きな2枚の剥離面によって構成されている。このうち、2面が接する線上に打点がある。背面も大きな剥離面によって構成されているが、打面直下には微細な剥離が認められる（打面角や作業面調整によるものか）。
		B区①	334	剥片	黒曜石	a	欠	(11.2)	(23.5)	3.6	0.82	剥片末端部。背面には、本資料の主要剥離面にみられる剥離方向に対向する剥離面にみられる。

石器集中1



第7図 鶴ヶ岡外遺跡第5地点出土石器 1(2/3)

出土層位はⅡ層から立川ローム第Ⅳ層中位までで、第Ⅲ層(ソフトローム)が分布の中心域である。Ⅱ層は第Ⅲ層と類似するが、植物痕が目立ち、何らかの攪乱を受けている可能性がある。従って、上位から出土した石器は現位置を保っていない可能性が高いが、下部出土の石器と分布範囲は重なっており、大幅な移動はないと思われる。北側の第2地点ではほぼ全域で同様な攪乱を受けたようなローム層が広がっていた。

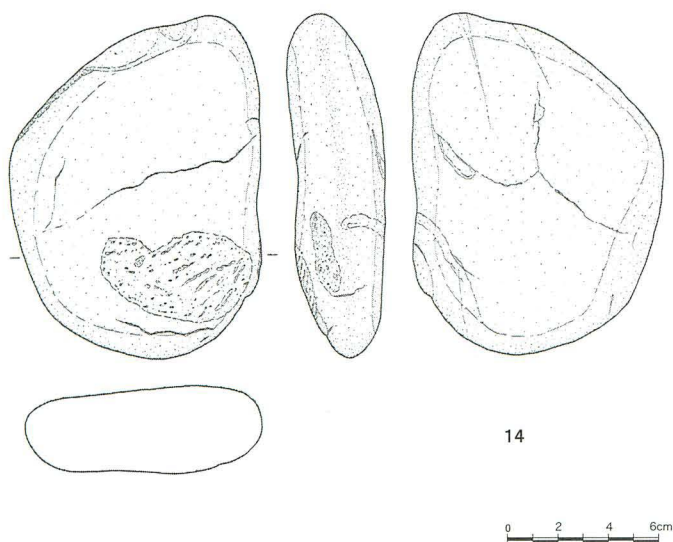
②石器集中2

調査区B区の東側に位置する。剥片1点のみ出土した。標高28.44m、立川ローム第Ⅲ層中の出土である。

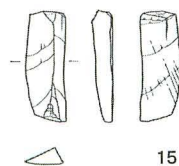
①石器集中3

調査区C区の中央付近、北端に位置する。総点数3点でほぼ接して出土した。標高27.89m、立川ローム第Ⅳ層中の出土である。

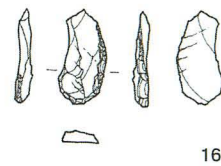
石器集中1



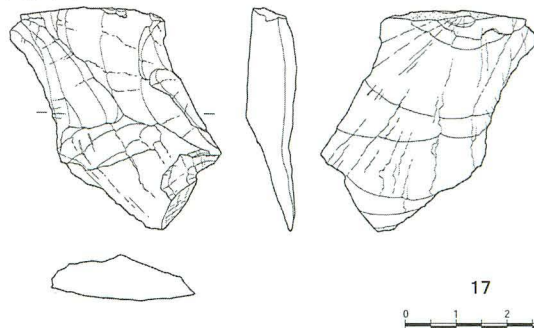
石器集中2



B区遺構外



石器集中3



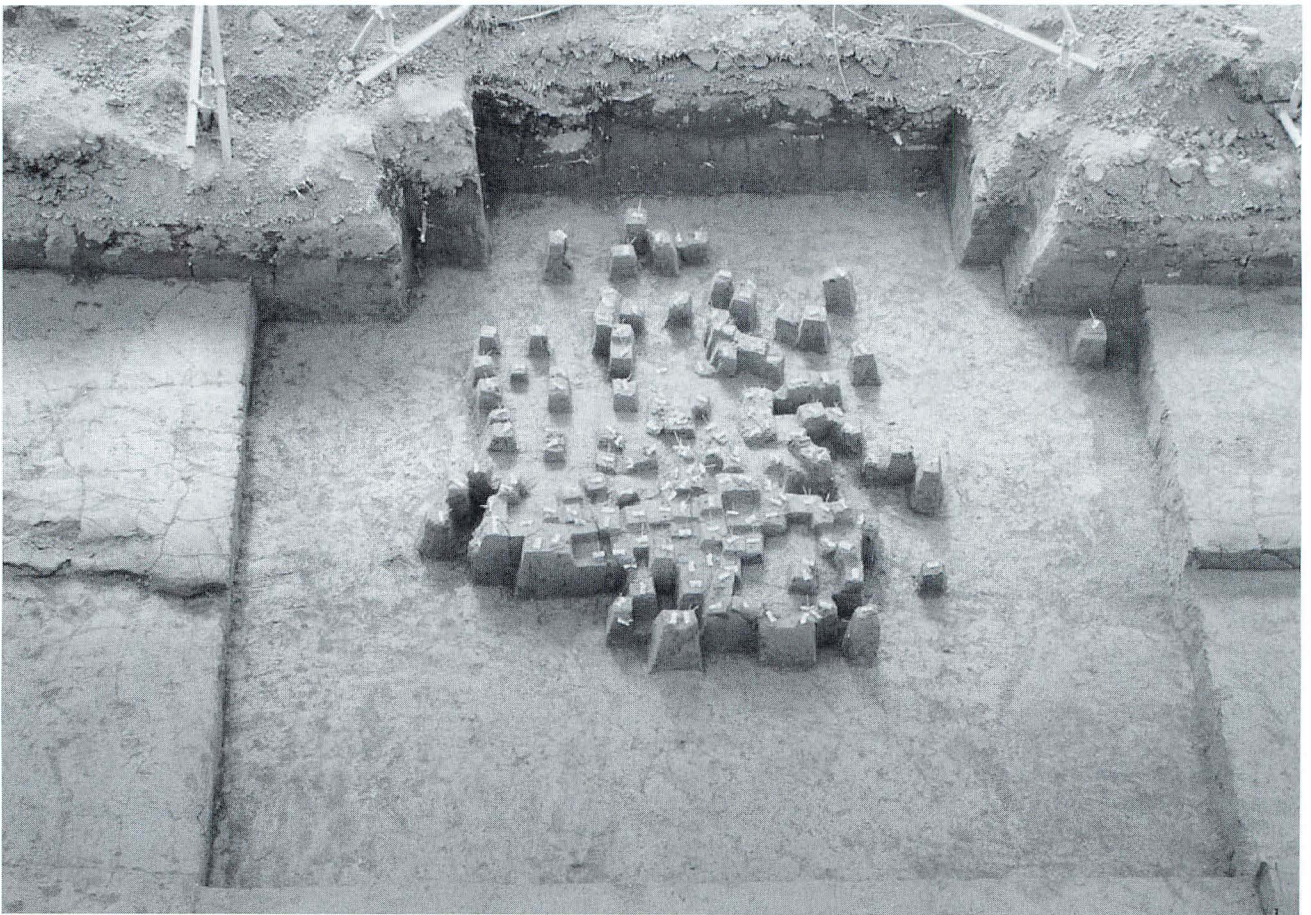
第8図 鶴ヶ岡外遺跡第5地点出土石器 2(1/3・2/3)



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点 B 区全景 (東から)



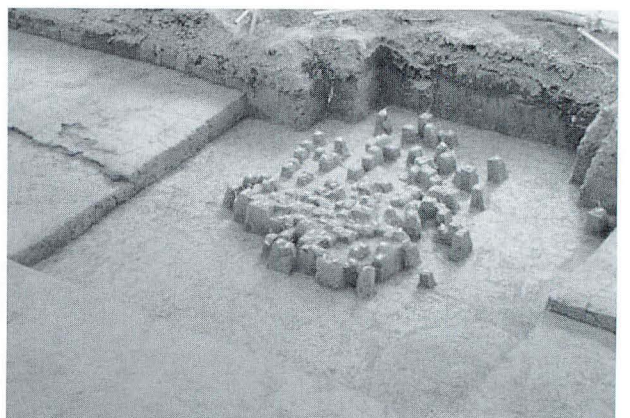
鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点 C 区全景



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 1



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 1 全景



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 1



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 1 土層



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 1 遺物出土状況 1



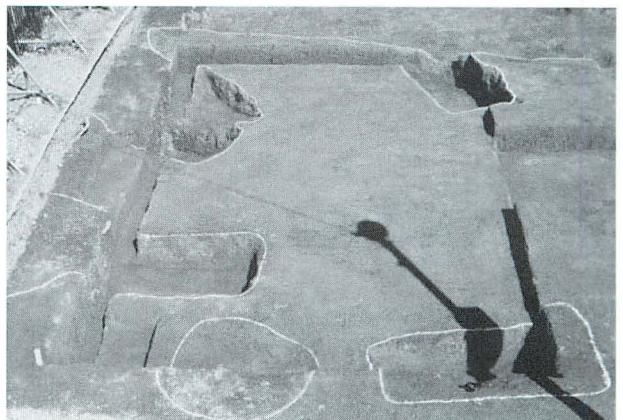
鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 1 遺物出土状況 2



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 1 台石？出土状況



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 2



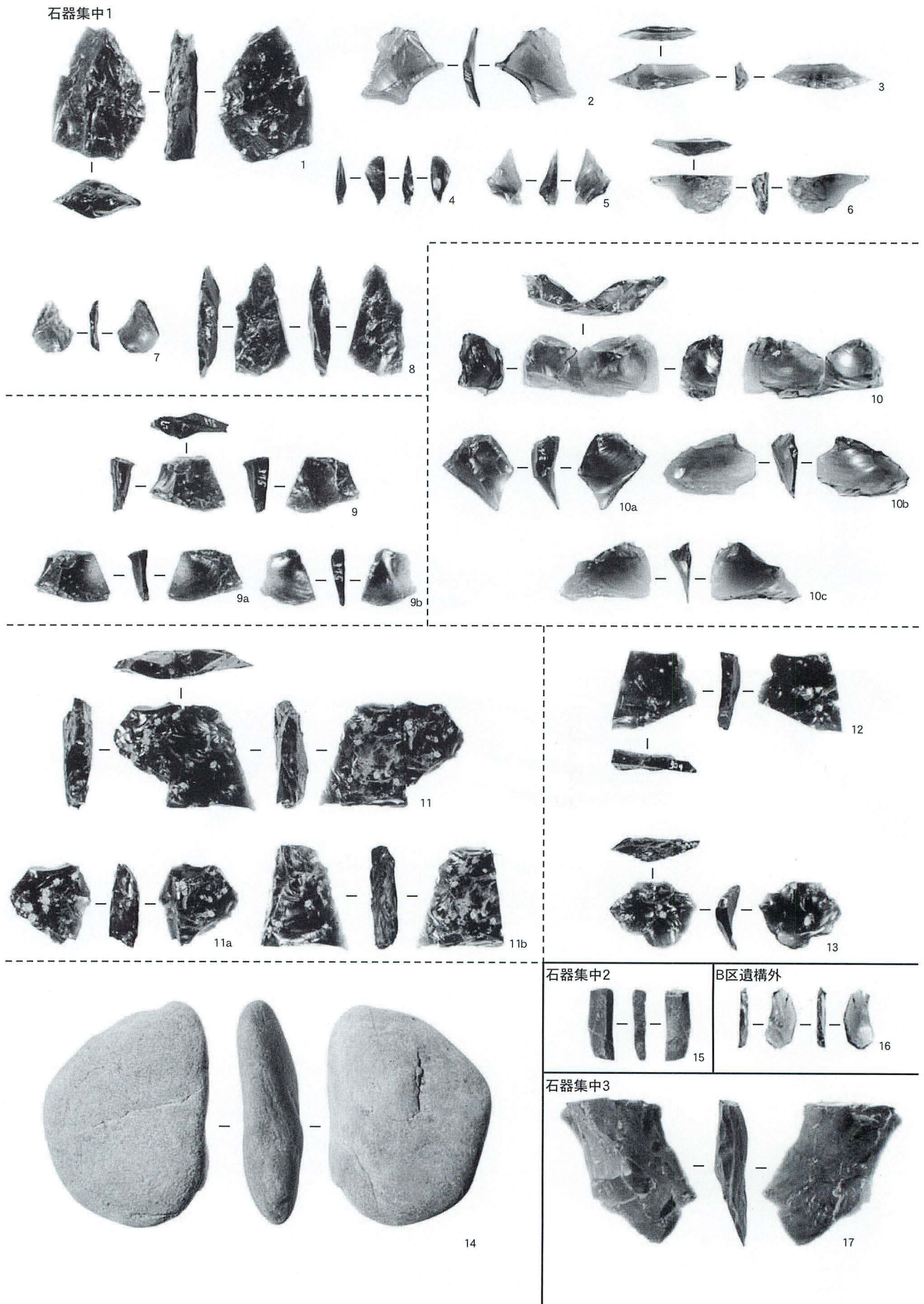
鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 3



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点石器集中 3 遺物出土状況



鶴ヶ岡外遺跡第 5 地点作業風景



報告書抄録

書名	市内遺跡群 5	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 6 集			
編集者	高崎直成	著者	高崎直成			
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒 356-8555 ふじみ野市大井中央一丁目 1 番 1 号 TEL 049 (220) 2088			
発行日	2011 年 (平成 23 年) 3 月 18 日					
所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	m ²	調査担当者
	種別 // 主な時代・主な遺構・主な遺物					
	特記事項					
つるがおかそと 鶴ヶ岡外遺跡 第 5 地点	さいたまけんふじみのしつるがおか 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡 5-188-1, 741-1, 198-1, 199-1, 214-1	112453	35° 51′ 55″	20080220	400	共同住宅建設
		30-048	139° 29′ 44″	20080307		越村篤
	集落跡 // 旧石器時代・石器集中 3 カ所・旧石器時代ナイフ、削器、台石					
	本遺跡では最も石器の集中した石器群を検出した。立川ローム第Ⅳ層上部に集中する。					
こまばやし 駒林遺跡第 5 地点	さいたまけんふじみのしこまばやししんでんまえ 埼玉県ふじみ野市駒林新田前 256	112453	35° 52′ 00″	20080530	509	分譲住宅建設
		25-013	139° 31′ 42″	20080628		越村篤
	集落跡 // 縄文時代・集石土坑 3 基・縄文土器 / 中近世・地下式坑 1 基、竪穴土坑 25 基、溝 4 条、柵列、ピット・土釜、瓦質鍋、瓦質鉢、銭貨、陶磁器					
	縄文時代の集石土坑は本遺跡で初検出。周辺で縄文時代の遺構分布を検討していく必要がある。また、調査地は地藏堂墓地 (西の寮) の南側に位置し、地下式坑や竪穴土坑との関係を検討する必要がある。墓地との境界に位置する溝も、調査地点の西側で 250m 近く検出した大溝と一直線上にあり、同一遺構の可能性がある。					
しんめいうしろ 神明後遺跡 第 34 地点	さいたまけんふじみのしなえましんめいうしろ 埼玉県ふじみ野市苗間神明後 283-1、284-1 の一部	112453	35° 51′ 36″	20080516	357	分譲住宅建設
		30-041	139° 31′ 38″	20080528		高崎直成
	集落跡 // 縄文時代・中期住居跡 1 軒、落とし穴 1 基、集石土坑 3 基、ピット・加曾利 E Ⅲ期土器、石鏃、打製石斧 / 中～近世・溝、溝状遺構・近世陶磁器					
	本遺跡における縄文時代中期の住居分布は本地点より 100 m 東側にあり、住居跡は分布中心域より離れる。本地点周辺の縄文時代遺構は集石等が多く、中期住居跡の検出は少ない。また、調査区南で検出した南北方向の溝 6 は、本調査区東側の地点で検出した中世屋敷の区画溝西端の可能性がある。					
ほむら 本村遺跡第 119 地点	さいたまけんふじみのしいちさわ 埼玉県ふじみ野市市沢 3 丁目 4-24 の一部	112453	35° 51′ 12″	20080604	254	共同住宅建設
		30-034	139° 31′ 33″	20080619		高崎直成
	集落跡 // 中世・地下式坑 2 基、土坑 15 基、ピット 60 基・茶臼、瓦質鉢、カワラケ、銭貨、煙管					
	地下式坑は本調査区北側の 104 地点でも 2 基検出しており、地下式坑と土坑群の分布と配置を検討していく必要がある。					